

1. 3 ソフトウェア（表計算ソフト）

問題3 【解答：ア】

CSV形式とは、横方向のデータを、“,”で区切って並べ、行の区切りに改行コード、“C_R”を入れる形式である。問題の表のセルの値は、CSV形式で次のように表現される。

1行目	つき	,	1月	,	2月	C _R
2行目	売上高	,	500	,	600	C _R

したがって、出力結果は「月、1月、2月C_R売上高、500、600C_R」となる。

問題4 【解答：ウ】

各商品の税込み価格を求めるには、セルD4～E5に以下の計算式が入力されていればよい。

	A	B	C	D	E
1				消費税率1	消費税率2
2			税率	0.1	0.2
3	商品名	税抜き価格		税込み価格1	税込み価格2
4	商品A	500		$B4*(1.0+D2)$	$B4*(1.0+E2)$
5	商品B	600		$B5*(1.0+D2)$	$B5*(1.0+E2)$

ここで、セルD4に入力する計算式“ $B4*(1.0+D2)$ ”は、セルD5、E4及びE5に複写される。複写先で正しい計算式とするためには、複写先で変化しない税抜き価格の列（B）と消費税率の行（2）を絶対参照（\$）で指定する。したがって、セルD4に入力すべき計算式は“ $\$B4*(1.0+\$D2)$ ”となる。

問題5 【解答：ウ】

まず、チェックディジットを求める手順を考えると、次のようになる。

- 手順1：社員コードの100の位を取り出す。
 - 手順2：社員コードの10の位を取り出す。
 - 手順3：取り出した100の位と10の位の値を加算した値の1の位を求める。
- これを表計算ソフトで実現することを考えると、次のようになる。なお、セルB2に入力する計算式を考えるので、社員コードとしてセルA2を利用する。

- 手順1：社員コード（セルA2）の値を100で割った商の整数部（ $370 \div 100 = 3.7$ ）を求める。
整数部（A2/100）
- 手順2：社員コード（セルA2）の値を10で割った商の整数部（ $370 \div 10 = 37.0$ ）を、10で割ったときの余り（ $37 \div 10 = 3$ あまり7）を求める。
乗余（整数部（A2/10）,10）
- 手順3：手順1、手順2で求めた二つの値を加算し（ $3 + 7 = 10$ ）、その値を10で割ったときの余り（ $10 \div 10$ あまり0）を求める。
乗余（手順1で求めた値+手順2で求めた値、10）
⇒ 「剰余（整数部（A2/100）+剰余（整数部（A2/10）,10）,10）」

1. 3 ソフトウェア（オープンソースソフトウェア）

問題1 【解答：ウ】

オープンソースの^{かんが}考^{かた}え方とは、“ソースコードの^{こうかい}公開”、“再^{さい}配布の^{せいげん}制限の^{きんし}禁止”、“無^む保証の^{げんそく}原則”の三つである。“適用^{てきようはんい}範囲”については、OSD（the Open Source Definition）の要件で、“6. 適用^{ようけん}領^{りやう}域^いに基づいた^{もと}差別^さをしないこと”とされているので、「適用^{てきようはんい}範囲の^{せいげん}制限の^き許可^{よか}」はオープンソースの^{かんがえかた}考^{かん}え方に^{はん}反するものである。

問題2 【解答：ウ】

ア：OSD の要件^{ようけん}には、“9. 同^{おな}じ媒体^{ばいたい}で配^{はい}布^ふされる^た他のソフトウェアを^{せいげん}制限^{せい}しないこと”とあるので適^{てき}切^{せつ}ではない

イ：OSD の要件^{ようけん}には、“7. 再^{さい}配^{はい}布^ふにおいて追^{つい}加^かライセンスを^{ひつよう}必要^{ひつ}とし^{よう}ないこと”とあるので適^{てき}切^{せつ}ではない。

ウ：OSD の要件^{ようけん}には、“4. 差^さ分^{ぶん}情^{じやう}報^{ほう}の配^{はい}布^ふを認^{みと}める場^ば合^{あい}には、同^{どう}一^{いつ}性^{せい}保^ほ持^じを要^{よう}求^{きゅう}しても構^{かま}わない”とあるので、同^{どう}一^{いつ}性^{せい}の保^ほ持^じを要^{よう}求^{きゅう}してもよい。（正解）

エ：OSD の要件^{ようけん}には、“8. 特^{とく}定^{てい}製^{せい}品^{ひん}に依^い存^{ぞん}しないこと”とあるので適^{てき}切^{せつ}ではない。